

令和6年度 医療センター事業報告

厳しい医療情勢の中、会員医療機関の協力を得て、運営の安定と健全経営に努めた。

しかしながら、医療センターとしての黒字化には至らなかった。検査依頼や患者紹介等、会員の皆様方のご協力を切にお願いし、引き続き収益増と経費節減に取り組み黒字化を目指す。

《事業項目》

1. 臨床検査部

- ① 日頃より業務内容の見直しや試薬の変更を提案し、より効率的に業務を遂行できるよう努めた。
- ② システムを活用した会員支援を実施し、安定したサービスの提供に努めた。
- ③ 各部門と連携し、医療センターの運営に貢献できるよう努めた。
- ④ 検診部超音波検査業務を目的に技師の研修を開始した。
- ⑤ 精度確保の安定化を図り、厳密な精度管理に努めた。

2. 検診部

- ① 唐津市・玄海町の特定健診・がん検診を受託し実施した。また、自治体と連携し受診率や人口動態に沿った適正化を推進した。
- ② 事業所の各種健康診断及び生活習慣病予防健診、ストレスチェックを積極的に受託し、特に付加健診の実施が大きく伸びた。
- ③ 人間ドックのサービス充実を図り、受診者の満足度を高め、リピートを促した結果、受診者数が増加した。
- ④ 会員医療機関の特定健診等の代行入力業務を行い、個別健診の円滑な実施に協力した。
- ⑤ 契約医療保険者からの特定保健指導を積極的に実施した結果、受診者数が増加した。
- ⑥ 学校保健安全法に基づく学童・生徒等の各種検診を実施した。
- ⑦ 多様な検診実施・ニーズの変化に対応するため、職員の資質向上を図った。

3. 診療部

- ① 会員からの紹介患者に対し、積極的かつ迅速に対応し、収益の確保・安定化を図った。
- ② 急性期一般入院基本料5の維持し、平均在院日数及び病床利用率のバランスを図った。
引き続き下記を重視する。
 - ・地域包括ケア病床を活用する。
 - ・地域連携室を活用し、紹介医との連携を強化する。
 - ・紹介患者の受け入れを円滑にし、新入院患者数の増加を図る。
- ③ リハビリテーション診療の強化を図った。
- ④ CT装置を更新し、利用率の向上を図った。

4. 諸会議

- ① 管理・診療会議、各種委員会
- ② 九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会（熊本市 7/6-7 開催）